



光が丘

大津市立晴嵐小学校 学校だより2月号

在籍児童 874名 令和7年1月31日

学校教育目標

求めて学ぶ子

～ふるさと晴嵐に愛着と誇りを～

今年度も残り2か月…ふりかえりの時期に



今年度初めての体育館での始業式

今年は2月3日が立春ですので、2月2日が節分となります。暦の上では春ですが、来週には強い寒波が到来し、むしろ冬本番の寒さに見舞われそうです。昼間は暖かいが続いていたため、気温の変化で体調を崩さないよう、健康管理には十分ご注意ください。

さて、学校では、この1年間をふりかえりながら、学年の総まとめをする時期です。様々な学習や行事、当番や係の仕事、クラブ活動や委員会活動などを通して、子どもたちは確実に成長しています。そんな自分たちの成長を実感できるような時間を大切に、次年度に向けた意欲につなげたいと考えています。

必ずしも、うまくいったことばかりではないかも知れません。失敗して悔しい思いをしたり、目標を達成できず落ち込んだりしたこともあるでしょう。しかし、努力したこと、挑戦したことこそ価値があり、それが成長に結びついていることを、子どもたちにはきちんと伝えたいと思います。

ご家庭におかれましても、1年間のお子様の成長をふりかえる機会を作っていただき、認めて褒めて励ましてくださるとありがたいです。

コラム「教室の風景」

⑥

1月17日(金)、阪神淡路大震災から30年という節目の日を迎えました。大都市を直下型地震が襲った戦後初のケースであり、地震の規模はM7.3、死者6,434人、負傷者は43,792人に及び、未だに3人が行方不明だと言います。当時、この大津も大きく揺れ、飛び起きたことを思い出します。

この日の長休みに、地震を想定した避難訓練を行いました。しかし、当然のことながら、子どもたちは、この震災も14年前の東日本大震災も知りません。「話は聞いたことある」「写真や映像で見たことはある」という反応です。繊細な子もいますので、不安をあまり過ぎないように配慮しつつ、災害に備えて日頃から考えておきたいことや備えておきたい物、地震が起きた際の身の守り方などについて、可能な限り指導したところです。

私は、平成18年の夏休みに、兵庫県心のケアセンターで、阪神淡路大震災で被災した子どもたちのトラウマとその対応について学ぶ研修を受講しました。その時に実体験を涙ながらに語ってくれた若者のことが忘れられません。「家族で一人だけ生き残った自分を責め、また、家族のもとへ行きたいという思いから、何度も自死しようとした。家族の分までしっかり生き抜くことを決断するまでには、相当な時間と支えてくれる人たちが必要だった。」という主旨の話でした。

あまり考えたくありませんが、琵琶湖西岸断層帯と花折断層帯が平行して走っている大津市北部から西南部にかけては、M7.5程度の地震が起こる恐れがあると言われています。地震への備えや家族の決め事などについて、是非この機会に話し合ってみてください。

【校長 富永】